

K140.7

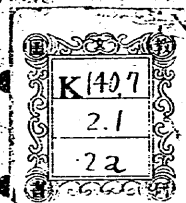
2.1

2a

新訂
高等小學唱歌
伴奏附



第二學年用



文 部 省

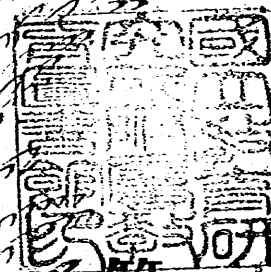
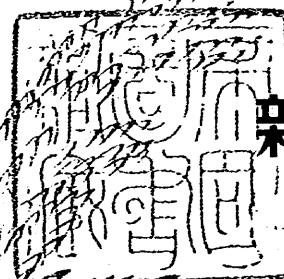


文部省

新訂

高等小學唱歌

伴奏附



第二學年用



緒 言

緒

言

一、本書ハ、音楽教育ノ進歩ト時代ノ要求トニ鑑ミ、高等小學校唱歌科ノ教科用トシテ、新ニ編纂セルモノナリ。

二、本書ハ、各學年ソレゾレ男子用ト女子用トニ分チテ編纂シ、何レモ毎卷二十二章トセリ。内、各十五章ハ、男子用・女子用共通ノ教材、他ノ各七章ハ、男子用・女子用ノ別ニ從ヒテ、歌詞・樂曲トモニ相異ナルモノヲ以テ充テタリ。

三、本書ノ歌詞及ビ樂曲ハ、歌詞ニ高等小學讀本・農村用高等小學讀本所載ノ韻文ノ一部（第一學年用「昭憲皇太后御歌」、第二學年用「夏の曉」、第三學年用「稻刈」）ヲ採用セル以外、總ベテ本省ノ新作ニ係ル。

四、本書ノ教材排列ハ、程度ノ難易ノミニヨラズ、一面、歌詞ニ示サレタル季節・行事ニ就キテモ考慮セリ。

五、本書ハ、取扱者ノ便宜ノタメ、唱歌曲ノミノ樂譜ヲ掲ゲタルモノト、伴奏附ノ樂譜ヲ掲ゲタルモノト、二種類作製セリ。但シ、後者ハ、男子用・女子用共通ノモノ、男子用・女子用各別ノモノヲ併セ掲ゲタルヲ以テ、各卷二十九章ヨリ成ル。

六、本書ノ樂曲ハ、事情ニヨリ、伴奏ヲ附セズシテ授クルモ差支ナシ。然レドモ、伴奏ヲ附スルコトニヨリテ、タダニ歌唱ニ便スルノミナラズ、ナホ歌曲ノ興趣ヲ増進セシムルコトヲ得ベシ。

一

七、唱歌曲ノミヲ掲ゲタルモノニ於テハ、伴奏ノ前奏・間奏・後奏ノ部分ニ對シテ、必要ナル休止符ヲ附シ、又ハ休止符ト併セテ當該箇所ノ伴奏ノ主要旋律ヲ記シ、以テ歌唱ニ便ナラシメタリ。

八、本書ノ唱歌曲中、重音ノ箇所ハ、事情ニヨリ、上部主要旋律ノミヲ採リ、單音唱歌トシテ課スルモ妨ゲナシ。其ノ際ニハ、正規ノ場合ト同一ノ伴奏ヲ附スルコトヲ得。

九、本書ノ樂譜ニ配當セル歌詞ノ記法ハ、概シテ新訂尋常小學唱歌ニ準ゼルモ、其ノ間、ナルベク發音上ノ實際ニ適切ナラシメンタメ、更ニ新ナル考慮ヲ加ヘタリ。

一〇、本書ノ樂曲ハ、概ネ中等諸學校ノ初年級並ビニ青年學校等ニ於テモ使用スルコトヲ得ベシ。

昭和十年三月

文 部 省

目 次

		男子用	女子用
一 若 草	2	— 2	— 2
二 千 里 の 春	6	二 6	
三 羽 衣 (獨唱及び二部合唱)	10		二 6
四 小 鳥 よ	18	三 8	三 14
五 潮	22	四 10	
六 初 夏	26	五 14	四 16
七 小 袖 曾 我	30	六 16	
八 蓑 蟲 (二聲輪唱)	32	七 18	五 18
九 夏 の 曉	36	八 24	六 24
一〇 月 見 草	40		七 28
一一 街 路 樹	44	九 28	八 32
一二 夕 立 そ そ ぐ (二部合唱)	48	一〇 32	九 36
一三 山	54	— 36	
一四 野 分	58	一二 40	
一五 秋 草	62		一〇 40
一六 清 少 納 言	64		— 42
一七 實 の り の 秋	68	一三 44	一二 46
一八 聖 恩	70	一四 46	一三 48
一九 明 治 神 宮	72	一五 48	一四 50
二〇 菊 の 香 (二部合唱)	76	一六 52	一五 54
二一 我 が 家	80	一七 54	一六 56
二二 校 庭 に て	84	一八 56	
二三 渡 り 鳥	90		一七 58
二四 吉 野 の 宮 居	94	一九 60	一八 62
二五 笹 三 題	96	二〇 62	一九 64
二六 少女のまとい (二部合唱)	100		二〇 68
二七 兄 弟 (二部合唱)	104	二一 66	
二八 姉 妹	108		二一 72
二九 告 別 の 歌 (二部合唱)	112	二二 70	二二 76

若 草

若
草

$\text{♩} = 92$

p

ーソ カ ク サ ノ ノ ベ ノ
二 わ か く さ は は る の

mp

con Ad.

mp

カ ナ タ ハ イ ソ モ ナ ク ス ナ ハ ラ モ ナ
し と ね か く さ の か を か ぎ つ つ す わ

mp

mf

ク ハ テ シ ナ キ ウ ミ ニ テ ア リ キ
り ゆ く り な く う み を は お も ふ

mf

mp

ク ナ バ ラ ノ ア サ ニ ユ フ ー ベ ニ
う な ば ら も は る の ひ な れ ば

mp

mp

ナ ギ サ フ ク カ セ ノ ゴ ト ク ニ
わ か く さ は な み に も え ず も

mp

mf

シ ホ ナ リ ヲ ノ ベ ニ テ キ キ ス
か げ ろ ふ ー は う み よ り た た ん

mp

rit.

若
草

一、若 草

一、若草の野邊のあなたは、

磯もなく、

砂原もなく、

果しなき海にてありき。

海原の朝にゆふべに、

渚吹く

風の如くに、

潮鳴を野邊にて聞きぬ。

二、若草は春のしとねか、

草の香を

かぎつつすわり、

ゆくりなく海をば思ふ。

海原も春の日なれば、

若草は

波に萌えずも、

かげろふは海より立たん。

千里の春

千里の春

$\text{♩} = 80$

$\text{♩} = 80$ のびやかに *loco*

8va: *f* *mp*

mp のびやかに

— ノ — モ — ヲ — —
 — わ — か — そ — —
 — ク — ミ — コ — —

カ — モ ミ ド リ ニ モ エ テ リ ク — サ — ノ —
 ニ — く きやう の ほ の の ま — と —
 コ — テ ハ ル カ ノ カ ナ タ カウ — — —

イ — ロ ケ ム ル カ ゴ ト シ オ — ホ ゾ
 み — づ ぶ か く か ゴ と し て ふ — と
 ヤウ — ハ セ タ カ ク ノ ビ テ マ — ン

mf

六

mp

ラ — モ カ — ス — ミ — ソ — タ — リ — テ
 シウ — ノ ツ — ナ — モ — ヤ — ハ ラ — ギ

ハ — テ シ — ラ — ス ハ — ル ハ キ — タ —
 ヲ — く — と — こ — ろ は — る は か — を —
 ヒ — う — ビ — う — ト ハ — ル ハ ソ — タ —

1. 2. 3. *mp*

レ リ
 レ リ

3. *f* *mf*

千里の春

七

二千里の春

7

一、野も、丘も、緑に萌えて、

草のいろ 煙るが如し。

大空も かすみわたりて、

はてしらぬ 春は來れり。

二、わが祖國・郷土の誇、

山と水 畫がくが如し。

蝶・鳥も 花を求めて

行くところ、 春は薫れり。

三、海越えて 遙かなた、

高粱は 背高く伸びて、

滿洲の 土もやはらぎ、

ひろびろと 春は渡れり。

レ

羽衣

(獨唱及び二部合唱)

羽衣

♩ = 92

合唱

mp

ミ ホ ノ ム ッ バ ラ ッ

mp *mf* *mp*

ラ ッ ラ ト ヒ ハ ハ レ ソ タ ル ソ

ラ ノ ウ ヘ ア マ ッ ラ ト ノ ノ マ

mf *mp*

ヒ ノ ソ デ ア ザ ヤ カ ニ コ ソ ミ

一〇

羽衣

エ ニ ク レ

mp

天女獨唱

p

ア ラ カ ナ シ ヤ マ

p

ツ ノ エ タ ノ ハ ゴ ロ モ ウ セ テ カ

mp

ヘ ル ス ベ ナ キ ク モ ノ カ ヨ ヒ ズ

一一

♩ = ♩

合唱

mf

モ チ カ ヘ リ タ ズ ク カ ラ ニ セ ント

天女獨唱

♩ = ♩

p

ク モ キ ノ ハ テ ニ カ ヘ ル ベ キ

いそぎて *a tempo*

mf *mp*

漁師獨唱

mf *mp* *mf*

セ ト ヤ サ テ カ ヘ セ ト ヤ イ

ト シ ケ レ ド サ ラ バ カ ヘ サ ン テ

ン ニ モ コ コ ロ シ ア ラ バ サ

ラ ニ ヒ ト サ シ マ ヒ ー テ モ ミ セ ヨ

なごやかに

ア ヤ ゲ イ シ ャ ウ カ イ ノ キ ヨ ク

ミ ル ミ ル カ ゲ ハ ト ホ ザ カ リ

ア ト ニ ノ コ レ ル フ ジ ノ ヤ マ

ウ ラ ラ カ ニ コ ソ ウ カ ビ ケ レ

三、羽衣

合唱 三保の松原、うらうらと

日は晴れわたる空の上。

天津少女の舞の袖、あざやかにこそ見えにけれ。

天女あら、かなしや、

松の枝の羽衣失せて、歸るすべなき雲の通路。

合唱 得たりと拾ふ、濱の漁師、

持歸りてぞ寶にせんと。

天女衣なくては、如何にして 雲居のはてに歸るべき。

疾く疾く返せ、人間に 着る用もなき羽衣を。

漁師 返せとや、さて返せとや、いと惜しけれど、さらば返さん。

天人も、心しあらば、更に一さし舞ひても見せよ。

合唱 舞ふや、霓裳羽衣の曲。

見る見る、影は遠ざかり、

あとに残れる富士の山、うららかにこそ浮かびけれ。

小 鳥 よ

小
鳥
よ

$\text{♩} = 66$

p

コ ト リ ヨ オ マ ヘ ハ ウ ミ カ ラ キ タ ノ カ

$\text{♩} = 66$

p

con

mp

コ ト リ ヨ オ マ ヘ ハ ヤ マ カ ラ キ タ ノ カ

mp

p

キ キ ナ レ ス コ ト リ ノ コ エ

p

一八

小
鳥
よ

mf

ク ミ カ ラ キ タ ヤ ウ ナ ヤ マ カ ラ キ タ ヤ ウ ナ

mp

mf

mp

p

メ ヅ ラ シ イ コ ト リ ノ コ エ ソ ナ レ マ ツ ノ

più p

p

più p

mp

ハ ヤ シ ニ ハ レ バ レ ト シ ター コ ト リ ノ コ エ

p

mp

p

一九

四、小鳥よ

小鳥よ、

お前は海から来たのか。

小鳥よ、

お前は山から来たのか。

聞きなれぬ小鳥のこゑ。

海から来たやうな、

山から来たやうな、

珍しい小鳥のこゑ。

磯馴松の林に、

はればれとした小鳥のこゑ。

湖

湖

♩ = 50

mp

一ハルノヒナレヤヒトリシテ
ニはるのひなれやゆくりなく

スナヤマノカゲニタタズミケフー
すなやまのうへのほりてけふー

ハシーモクミノオトキククミノオ
はしーもおきをながめつうみのお

trem. *p*

三

湖

トキキツツアレバタツナミハ
とききつつをれどにつなみは

mp

イトモハゲシクアラインニシロクダケ
いとしづけくあらいそにしろうたず

mf

テイハカゲニカキモウマレ
もいはかげにかきやうまれ

ン

三

五、潮

一、春の日なれや、

ひとりして

砂山すなの陰かげにたたずみ、

今日けふはしも 海うみの音おと聞く。

海うみの音おと聞きつつをれば、

立つ波なみは、いとも はげしく、

荒磯あらいそに白く砕けて、

礁陰せういんに、牡蠣かきも生まれん。

二、春の日なれや、

ゆくりなく、

砂山すなの上うへにのぼりて、

今日けふはしも 沖おきを眺ながめつ。

海うみの音おと聞きつつをれど、

立つ波なみは、いとも しづけく、

荒磯あらいそに白く打たずも、

礁陰せういんに、牡蠣かきや生まれん。

初 夏

初
夏

$\text{♩} = 96$

mp

一ゴツツノカゼハサリ一キカーニ
ニくさのかかをるののむねに
三ニヒバリミチノヤウ一ガハニ
四けやきのみきのちにたかく

mp

イロアルゴトクナがーレーキテ
ひはひらーびらーとさしーわたり
ツラナルナミキソカバシテ
しぜんのつよさおもーはしむ

初
夏

f

トクソイノソラーハタダカーナタミ
ひかりとーつらーのよろこびにい
ミヅエノカゲモノビヤカニモ
はやしはーさすかふりたれどな

rit. *a tempo* *mp*

ユルカギーリハアヲーキーカナ
きものーふかけーもみゆ
ユミドーリノイローマシス
つはきたれりあたーらし

rit. *a tempo*

六 初 夏

一、五月の風は、さわやかに
色ある如く流れ來て、
都會の空は、ただかなた。
見ゆるかぎりは青きかな。
二、草の香かをる野の胸に、
日はひろびろとさし渡り、
光と土の喜に
生物の舞ふ影も見ゆ。

三、新墾道の兩側に

つらなる並木、若葉して、
瑞枝の影も伸びやかに、
もゆる緑の色増しぬ。

四、樺の幹の、地に高く、

自然の強さ思はしむ。
林はさすが舊りたれど、
夏は來れり、新しく。

小袖曾我

小袖竹我

♩ = 100

一 ツ カ ノ 一 ジフ ラウ 一 ス ケ ナ リ ハ
二 は は は 一 かね て の ヒ カ ヒ ヲ ゑ
三 サ ラ バ 一 ユル ス ト コ ト バ
四 は は の 一 めぐ み に は ら か ら は

♩ = 100

オ ト ク ト ゴ ラ ク ー ヲ ト モ ナ ヒ テ イ マ
 お と う と ゴ ら う ー を ト モ ナ ヒ テ イ マ
 キ ク ヨ リ ゴ ら う ー を ト モ ナ ヒ テ イ マ
 か に み の こ そ で い な に き て い ざ

[illegible]

(V)

ノ モ ト ラ ゾー タ ザ ネ ケ ル
 の な さ け に ー と り な し め
 ニ カ ド テ ノ ー モ ノ カ シ リ
 の す そ の に ー た ら じ か ふ

小柏曾我

七、小袖曾我

一、曾我十郎祐成は、

母ははの許もとをぞたづねける。

二、母はかねての誓^{ちか}ゆゑ、

兄あにの情なさけにとりなしぬ。

三「さらはゆるす。」と一言葉

聞くより、
五郎は、
嬉しさに

落つる涙をふり排ひ

四、母の恵に、同胞は、

富士の裾野に立ち向かふ。

衰 蝨

(二聲輪唱)

♩ = 69

mp 軽く

—ミノムシ ミノムシ ミノハ テノモノ

♩ = 69

mp 軽く

—ミノムシ ミノムシ ミノハ

♩ = 69

mp 軽く

mf

mf

カサガナ イ カサハ ナクレド ミノサヘ アレバ アメガ

mf

テノモノ カサガナ イ カサハ ナクレド ミノサヘ アレバ

mf

f

mp

フツ テモ スレナイ グラウー ニみのむし

mp

アメガ フツ テモ スレナイ グラウー ニみのむし みのむし

mp

mf

みのむし みのを はすなら あさがよい つゆは

mf

みのを はすなら あさがよい つゆは おちても

mf

mf

おちても こえだの みのは ちうーに ぶらりと おちない だらうー

mf

こえだの みのは ちうーに ぶらりと おちない だらうー

mf

mp

ミミノムシ ミノムシ ソトヘ デルニモ デラレナイ

mp

ミミノムシ ミノムシ ソトヘ デルニモ デラレナイ

mp

mp

mf

ミドリ モエタツ リカバノ ナカデ ミノハ イカニモ

mf

イ ミドリ モエタツ リカバノ ナカデ ミノハ

mf

mf

p

スゲナイ グラウー 四みのむし みのむし

p

イカニモ スゲナイ グラウー 四みのむし みのむし どこに

p

p

mp

どこにゐるのか こゑがない みのをきたまま

mp

ゐるのか こゑがない みのをきたまま かほさへ

mp

mp

mf

かほさへ たさぬ あきか こないと なかない だらう

mf

たさぬ あきか こないと なかない だらう

mf

mf

一、みのむし、みのむし、
 蓑は手のもの、笠がない。
 笠はなけれど、蓑さへあれば
 雨が降つても濡れないだらう。

二、みのむし、みのむし、
 蓑を乾すなら 朝がよい。
 露は落ちて、小枝の蓑は、
 宙にぶらりと落ちないだらう。

三、みのむし、みのむし、
 そとへ出るにも、出られない。
 縁もえたつ若葉のなかで、
 蓑はいかにも脱げないだらう。

四、みのむし、みのむし、
 どこにゐるのか、聲がない。
 蓑を着たまま、顔さへ出さぬ。
 秋が来ないと、鳴かないだらう。

夏の暁

夏の暁

$\text{♩} = 108$

$\text{♩} = 108$ 軽快に

mf 軽快に

一ノコレツキノカイゲフミテウ
二またたくほしむをいうたなまきてつ
三アイサヘガクイーソをぐとめごかが
四

mf

タフシヤ一カモサソヤカニタ
ウのしらのたまふみらした
フのヒヘたるしゆかり
ゴにそへたるしゆかり

p

ガハノホ一トリウシカヘルム
カハシのホ一トリウシカヘルム
ハシのホ一トリウシカヘルム
ハシのホ一トリウシカヘルム

mp

三六

con fza

夏の暁

mf

ラノヲノコガムネノヘヲフ
とのをとめかまへがをふ
クヤクチブエいサシクセ
しのはこびもいそいとせ

mf

クヤアサカゼソヨ一ソヨトハ
くやあさかぜそよ一そよとハ
いあふるるあさ一ぼらけハ
いあふるるあさ一ぼらけハ

p

タラクミニハウレヒナシ
たらくみにいはれひな
たらくみにいはれひな
たらくみにいはれひな

p

三六

mp

三六

三七

九夏の曉

一、

残れる月の影踏みて、
歌ふ唱歌もさわやかに、
小川のほとり牛飼へる
村の男の子が胸の邊を、
吹くや朝風にそよよと。
働く身には憂なし。

二、

またたく星を戴きて、
露の白玉に踏みだき刈る
向かひの岡にまぐさ刈る
里の少女が前髪を、
吹くや朝風にそよよと。
働く身には憂なし。

三、

朝食の煙うちなびき、
仰ぐ日の出の麗かに、
小牛追ひつゝ歸る子が、
吹くや口笛勇ましく、
生気溢るる朝ぼらけ、
働く身には望あり。

四、

家路を急ぐ少女が、
籠に添へたる白百合の、
にほへるまみのこやかに、
足の運びもいそいそと、
生気溢るる朝ぼらけ、
働く身には望あり。

月見草

月見草

♩ = 100

mf

dim.

mf

mf

— ユア — ギヲ コ — メシ ク サ ヤ マ ニ ホ ノ カ ニ
ニ ツ き か け し — ろ く か ぜ ゆ ら ざ ほ の か に

四〇

月見草

p

サ ニ キ ス キ ナ ル ハ ナ ミ ヤ コ ノ ト モ ト
さ — き め き な る は な み や こ に い ま す

mp *cresc.*

コ ソ ノ ナ ツ タ フ ヲ ク シ シ
お も ひ て の と も に お く ら ん

mp *cresc.*

poco rit.

オ モ ヒ テ ノ ハ ナ ヨ ハ ナ — ヨ
に ほ ひ こ め は な よ は な — よ

poco rit.

mf a tempo

ソ ノ ナ モ ユ カ シ ツ キ — ミ ヲ ウ —
そ の な も い と し ツ き — み さ う —

a tempo *mf*

四一

一、月見草

夕霧に
ほのかに
都の友と
去年の夏
手折り暮し
思出の

二、
月影白く
都のかに
その花よ
名も
いと
月見草
花丘に
咲きぬ
月見草
贈らん
句こめ

風清く
友よ
月見草
来れ
花丘に
咲きぬ

か ぜ き - よ く - た も と か - ろ し

と も よ と も - よ き た れ を か に -

し づ り く も つ き み さ う -

は な さ き ぬ

街路樹

街
路
樹

$\text{♩} = 100$ *poco rit.*

$\text{♩} = 100$ *poco rit.*

mf cre - - scen - - do - - *poco rit.*

mf a tempo

一ツキヒザシウケテカゲヲヒト
ニしろきほこりおひてのべのとり

mf a tempo

vmf

ニタフカイロジュガイロジュシゲーレ
をしたふかいろじゆがいろじゆのびーよ

f のびのびと

アヲクヒロクシゲーレ
たかくながくのびーよ

四四

街
路
樹

p ツラクレアツキノボリホシミナラ
mf くもいててかぜほしりきたるらし

p (mf)

mp ッユフカシムーレカいろジュ
f よるのあめふれーやがいろじゆ

p ハヲタレーテシタタル
mf えにえにーをおちくる

p (mf)

vmf

ツユーハヨキッユヅ
あめーはよきあめぞ

四五

二、街路樹

一、暑き日ざし 受けて、
影を人にあたふ
街路樹、街路樹、しげれ、
青く、廣く、しげれ。
空暮れて 月のぼり、
星満ちて 露ふかし。
ねむれ、街路樹、葉を垂れて。
したたる露は よき露ぞ。

二、白き埃 負ひて、

野邊の鳥をしたふ
街路樹、街路樹、のびよ、
高く、長く、のびよ。
雲いてて 風走り、
來るらし、夜の雨。
振れや、街路樹、枝枝を。
おちくる雨は よき雨ぞ。

夕立そそぐ

(二部合唱)

夕立そそぐ

♩ = 69

♩ = 69

♩ = 69

p *f* *p*

The piano introduction is in 2/4 time with a key signature of two sharps (F# and C#). It features a melody in the right hand and a bass line in the left hand. The tempo is marked as ♩ = 69. The piece starts with a piano (*p*) dynamic, followed by a forte (*f*) section, and then returns to piano (*p*). The melody includes various fingerings and articulations, such as slurs and accents.

mp 軽快に

一 ラ イ ヒ ト シ キ リ カ ゼ ヒ ト ソ タ リ
二 き ぎ ざ わ め き て セ ミ ナ キ ヤ ミ テ

mp 軽快に

一 ラ イ ヒ ト シ キ リ カ ゼ ヒ ト ソ タ リ
二 き ぎ ざ わ め き て セ ミ ナ キ ヤ ミ テ

mp leggiero

The first part of the song features a vocal melody in the right hand and a piano accompaniment in the left hand. The tempo is marked as *mp* 軽快に (moderato, lively). The melody is in 2/4 time with a key signature of two sharps. The piano accompaniment includes a bass line and a right hand part with various fingerings and articulations. The piece ends with a *mp leggiero* section.

四八

夕立そそぐ

ク ロ ク モ ク ヅ レ ソ ラ フ オ ホ ヒ
く ろ あ り め れ て み ち を ま よ ひ

ク ロ ク モ ク ヅ レ ソ ラ フ オ ホ ヒ
く ろ あ り め れ て み ち を ま よ ひ

ナ ナ メ ニ ト ビ テ ユ フ タ チ ソ ソ グ
い け の も た た き ゆ ふ た ち そ そ ぐ

ナ ナ メ ニ ト ビ テ ユ フ タ チ ソ ソ グ
い け の も た た き ゆ ふ た ち そ そ ぐ

The second part of the song continues the vocal melody and piano accompaniment. It includes the same lyrics as the first part. The piano accompaniment features a bass line and a right hand part with various fingerings and articulations. The piece ends with a *mp leggiero* section.

四九

ヤッデノ カゲヲ イデコシ フトキガマ
いづこに ゐた る ちひさき こひのむれ

ヤッデノ カゲヲ イデコシ
いづこに ゐた る ちひさき

marcato

rit. 一段とおそく
フトキガマ ヨロコビテ ヤウテヲツキテ
こひのむれ よろこびて ひたしへみぎへ

rit. 一段とおそく
フトキガマ ヨロコビテ ヤウテヲツキテ
こひのむれ よろこびて ひたしへみぎへ

rit. *colla voce* *p*

f a tempo
ウコカザルセヲ タタキ タタキ
およぎゆくせを たたき たたき

f a tempo
ウコカザルセヲ タタキ タタキ
およぎゆくせを たたき たたき

f a tempo

ユフダチソソギ ソソグ
ゆふだちそそぎ そそぐ

ユフダチソソギ ソソグ
ゆふだちそそぎ そそぐ

p

三、夕立そそぐ

一、雷 一しきり、

風 一わたり、

黒雲くづれ、空をおほひ、

斜に飛びて 夕立そそぐ。

八つ手の陰を 出来し太き墓、

(太き墓)

よろこびて、兩手をつきて、

動かざる背をたたき、たたき、

夕立そそぎ、そそぐ。

二、木 木 ざわめきて、

蟬 なきやみて、

黒蟻ぬれて 路を迷ひ、

池の面たたき、夕立そそぐ。

いづこにゐたる、小さき鯉の群、

(鯉の群)

よろこびて、左へ、右へ、

泳ぎ行く背をたたき、たたき、

夕立そそぎ、そそぐ。

山

山

$\text{♩} = 108$

mp

一 ア ア ヒ ン ガ シ ノ オ ホ ツ ラ ニ
二 あ あ ら く じ つ の い ろ う け て

mf

ア マ ソ ン リ タ ツ ハ ル ノ ヤ
を を し く そ ひ ゆ あ き の や ま

f

ネ グ ラ フ イ テ ー シ ア ラ ソ シ ー カ
を さ な き ひ よ り あ ふ ぎ み ー る

mf

ミ ネ ノ イ ハ ホ ー フ ト ビ タ チ テ
み れ の い は は ー は わ か う ど に

f

ク モ ノ カ ナ タ ニ カ ケ リ ユ ク
に か さ り さ う ー を さ づ け た り

モ ロ ビ ト ア フ グ シ ノ ノ メ ノ
も ろ び と あ ふ げ ゆ ふ ー や け の

f はぎれよく *mf*

キ バ ク ー ニ ハ ユ ル ハ ル ノ ヤ マ
へ い わ に は ゆ る あ き の や ま

f *mf* *mp* 口笛の様に

poco rit.

poco rit.

一三、山

一、 ああ、東の 大空に
天をそり立つ、春の山。

ねぐらを出てし 荒鷲か、
峯の巖を 飛立ちて、雲のかなたに 翔り行く。

諸人あふげ、しのめの
希望に映ゆる 春の山。

二、 ああ、落日の 色うけて
雄雄しく聳ゆ、秋の山。

幼き日より あふぎ見る
峯の巖は、若人に 高き理想を

授けたり。

諸人あふげ、夕焼の
平和に映ゆる 秋の山。

分

五八

分

一四、野 分

一、吹⁺け、吹⁺け、野⁺わけ、

丘⁺のすすきを 押⁺しなびけ、

木⁺木のこずゑを ゆすぶつて。

吹⁺け、吹⁺け、野⁺わけ、

おもひたつては やめられぬ

男⁺のやうな いきほひで。

二、吹⁺け、吹⁺け、野⁺わけ、

あまい眠⁺の 夢⁺さめぬ

窓⁺のとびらを ゆりたたき。

吹⁺け、吹⁺け、野⁺わけ、

人⁺のころに 天⁺然⁺の

力⁺のほどを 見⁺せてやれ。

三、吹⁺け、吹⁺け、野⁺わけ、

ゆくてさへぎる ものは、みな、

強⁺い力⁺に りちなびけ。

吹⁺け、吹⁺け、野⁺わけ、

空⁺飛⁺ぶ鳥⁺の つばささへ、

たわますほどに 吹⁺きまくれ。

秋 草

秋
草

♩ = 108

♩ = 108

p

mp

一 ナ ガ ル ル ク モ ノ イ ロ ニ サ ヘ
二 ヤ マ ム を ヲ ヲ け ば を み な ヘ し
三 カ ハ ラ ニ ツ ツ ク イ チ メ ヘ ノ
四 お も へ ば ふ か き て ち ん ね ん の

mp

mf

ア キ ハ キ ニ ケ ー リ ノ ニ ヤ マ ー ニ
あ き の ひ か り ー を て り か へ す
ス コ モ ナ り け り あ き く れ ば

mf

六二

秋
草

p *mf*

キ キ ヲ イ ト ハ キ フ チ バ カ マ
す が た を か し ー き わ れ も か う ー
ラ フ ノ マ ヒ ユ ク カ ナ タ ニ ハ
す が た や さ し ー き は な く さ の

p *mf*

mp

1. 2. 3. 4.
カ セ ニ ソ ヨ ギ テ サ キ ソ メ ス
ち さ き の め て た さ よ
ア カ キ ナ デ シ コ ム レ サ ケ リ
い ろ も し づ け き ふ ぜ い あ

mp

一、流るる雲の色にさへ、
秋は来にけり、野に、山に、
桔梗、いとほき、ふぢばかま、
風にそよぎて、咲きそめぬ。
二、山路をゆけば、をみなへし
秋の光を、照りかへす。
姿をかきしき、われもかう、
小さき野菊の、めでたさよ。
三、河原につづく、一面の
薄もやがて、穂に出てん。
蝶の舞ひゆく、かなたには、
あかきなてし、群咲けり。
四、思へばふかき、天然の
こころなりけり、秋来れば、
姿やさしき、花草の
色も静けき、風情あり。

一五、秋 草

六三

清 少 納 言

清少納言

$\text{♩} = 84$

mp

一 カウ 一 ロホウ 一 ノ 一 ユ
二 ま く ら の さう 一 し を
三 ウ タ ニ ナ ア ル 一 モ

mp

V P

キ ハイ カ ニ ト ノ タ マ ハ ス キ
り に ふ れ つ つ か き つ け し し
ト ス ケ ノ コ ト ウ マ レ キ テ ウ

p

六四

V mf

サ キ ノ ミ ヤ ノ ミ コ ト バ ニ ミ
きょう ー の ふ で の あ た ら し く い
タ コ ソ ヨ マ ネ シ ユ ン サ イ ノ ナ

mf

V f

ス フ カ カ ゲ テ サ イ ガ ク ノ タ
ろ も に は ひ も な ら ひ な き た
カ ニ マ ジ リ テ イ ヤ サ ラ ニ タ

f

V mf

カ キ ホ マ レ フ ノ コ シ タ リ
か き は ま れ を つ た へ た り
カ キ ホ マ レ ハ カ ガ ヤ キ ス

mf

清少納言

六五

一六、清少納言

一、香爐峯の

雪はいかにと のたまはす

きさきの宮の み言葉に

御簾をかかけて、 才學の

高きほまれを のこしたり。

二、枕草子

をりにふれつつ 書きつけし

詩興の筆の 新しく

いろものにほひも ならびなき

高きほまれを 傳へたり。

三、歌に名ある

元輔の子と 生まれ來て

歌こそ詠まね、 俊才の

中にまじりて、 いやさらに

高きほまれは 輝きぬ。

實のりの秋

實のりの秋

♩ = 80

♩ = 80 生々と

mf *con acc.*

mf 生々と *p*

一 ミノリ ノ アキ ハ キタ リ ス 一 ユタケ
二 たりほ の いね は こが ね に 一 なみう

mf *p*

mp *mf*

ク モ 一 カドタ ノ アタ リ ヨロコ
て り 一 みわた す た の も かちど

mp *mf*

六八

實のりの秋

1. *f* *rit.*

ビ ノ ロ エ ノ ウヅ マ キ ウヅ 一 マク 一
き は た か く と ど ろ

f *rit.*

2. *f* 一段と速く

き と ど 一 ろ く 一

2. *più allegro* *f* *più f* *ff*

一、實のりの秋は
来りぬ、ゆたけくも。
門田のあたり、
よろこびの聲の
うづまき、うづまく。
垂穂の稻は、
黄金に波うてり。
見わたす田の面、
かちどきは高く
とどろき、とどろく。

六九

聖 恩

聖 恩

$\text{♩} = 88$

— ア マ ツ ヒー ノ テ ラ サ ン キ ハ ミ
 ニ と は き よ の つ た へ な れ ど も
 ミ タ カ キ オ ン フ カ キ メ ク ミ ラ

$\text{♩} = 88$

p

mp

フ リ アー フ — ゲ チ ヨ ダ ノ ミ ヤ キ
 か に の — こ — る お ん し の み け し
 ア サ ユ フ — — ニ カ ウ — ム ル フ レ ラ

mp

mf

オ ホ キ ミ ハ カ ミ ノ ミ ス エ — ズ
 お み と し て き み に さ さ ぐ — る
 ヨ ロ ズ ヨ ニ ス メ ラ ミ カ ド — ノ

mf

f *mf* *rit.*

カ シ コー シ ヤ ウ ヤ マ ヒ マ ツ レ
 ま ご こー の た め し と な れ り
 ミ サ カー エ フ コ ト ホ ギ マ ツ レ

f *mf* *rit.*

三 二 一

御 萬 朝 高 ま 臣 香 遠 畏 大 天
 榮 代 タ き ご と に き 君 遠 畏 大 天
 を に に 恩 こ し 残 世 し 君 は 仰
 こ す か う 深 の 君 恩 傳 敬 の 千
 と め む る 恵 た に 賜 な ひ 御 代
 ほ ら る 我 し 捧 の だ ま 裔 田
 ぎ み 等 し ぐ 御 衣 も つ れ ぞ の
 ま か ど の 衣 も つ れ ぞ の 宮
 つ の 衣 も つ れ ぞ の 宮 居

一八 聖 恩

明治神宮

明治神宮

$\text{♩} = 100$

mf

一 ア ナ ヒ ノ コ ト ク タ ダ シ ク ツ ヨ ク
 二 つ き こ と ふ か く と し こ と ひ ろ く
 三 ク ア ト キ タ カ キ イ ヤ シ キ ヒ ク キ

$\text{♩} = 100$

mf

f

ヒ ト ス ナ ホ ク ヒ ラ ケ ス ス ム
 よ ろ こ ひ よ も に あ ふ れ み ち て
 ク ニ タ ミ ナ ベ テ ヒ ト ツ マ ナ コ

f

mf

ヒ イ ツ ル ミ ク ニ ノ ヒ カ リ フ ツ ト ニ
 か い こ く に ほ ん の ゆ う ひ の も と ゐ
 ア ハ レ ミ ハ ク タ ミ ミ チ ビ キ タ マ ヒ

mf

七二

明治神宮

ff

ハ ナ チ タ マ ヒ シ オ ホー ミ カ ド
 か た め た ま ひ し お ほー み か ど
 チ カ ラ タ マ ハ ル オ ホー ミ カ ド

ff

mf

p

シ ツ マ リ マ シ マ ス ヨ ヨ キ ノ ミ ヤ
 し づ ま り ま し ま す よ よ き の み や
 シ ツ マ リ マ シ マ ス ヨ ヨ キ ノ ミ ヤ

p

mp

mf poco rit.

ユ カ シ カ シ コ シ ヨ ヨー キ ノ ミ ヤ
 ゆ か し か し こ し よ よー ぎ の み や
 ユ カ シ カ シ コ シ ヨ ヨー キ ノ ミ ヤ

mf poco rit.

七三

一九 明治神宮

一、朝日の如く 正しく、強く、

一すぢ 直く 開け進む

日出づる御國の光を夙に

放ちたまひし大帝

しづまりまします代代木の宮

床し、畏し、代代木の宮

二、月ごと深く、年ごと廣く、

よるこび 四方に 溢れ満ちて

海國日本の雄飛の基

固めたまひし大帝

しづまりまします代代木の宮

床し、畏し、代代木の宮

三、貴き、高き、賤しき、低き

國民なべて 一つ愛兒

あはれみ、はぐくみ、導きたまひ、

力賜る大帝

しづまりまします代代木の宮

床し、畏し、代代木の宮

菊の香

(二部合唱)

菊の香

The image shows a musical score for the song "The Rose Tree". It consists of two staves: a vocal line and a piano accompaniment line. The key signature is one sharp (F#), and the time signature is 4/4. The tempo is marked as quarter note = 92. The vocal line begins with a treble clef and a key signature of one sharp. The piano accompaniment begins with a grand staff (treble and bass clefs) and a key signature of one sharp. The piano part includes a mezzo-piano (*mp*) dynamic marking. The score is for a single system, showing the first few measures of the piece.

一 ソ ラ キ ヨ ラ カ ニ ス ミ ー ソ タ ル ー ア
 二 あ と に は つ づ く は な ー も な く ー ひ
 三 ソ ガ シ キ シ マ ノ ク ニ ー ガ ラ モ ー キ

キ ノ ヲ ハ サ キ イ テ コ
と り ひ さ し く に ほ ひ つ つ お
ヨ キ カ ー ヲ ヲ ニ フ ク マ レ テ チ

七六

菊の香

Musical score for "Koroshi Tsumi" by Yuki Kajiura. The score is for a vocal part and a piano accompaniment. The vocal part is in treble clef with a key signature of two sharps (F# and C#). The piano accompaniment is in treble and bass clefs with the same key signature. The tempo is marked "Vmp" (Vivace molto più) and the dynamics are "mp" (mezzo-piano). The lyrics are in Japanese: コーシツカニヒートーノヨノチ / くはつゆしもかいはれどもか / ヨニヤチヨニカークーリナキヨ.

[illegible][illegible]

七七

二〇、菊の香

一、

空清らかに澄みわたるり

秋の終に咲きいてて

心しづかに、人の世の口

塵さへ据ゑぬ菊の花。

二、

後にはつづく花もなく

ひとり久しく匂ひつつ、

一、

置くは、露霜かはれども

かはらぬ色の菊の花。

三、

わが敷島の國がらも

清き薫にふくまれて

千代に、八千代に限りなき

齡を延ぶる菊の花。

L

我が家

我が家

♩ = 72

mp (V) mf p

一ツガイヘハマツシクモトラハスコトナクムツ
ニわがいへはなにごともしころをあはせてわさ
三ツガイヘハナツフユモヒモヨモオタシクスコ

(V) mf cresc.

マシクタノシキイヘナリアシ
はげむたのしきいヘなりゆふ
ヤカニタノシキイヘナリチチ

(V) f

タニハホシカゲアフギハタケニイデーヤ
べにはつきかげふみーいへゐにかへーりい
ハハノコトバヲマモータカラヲアハセシ

mf mp

スラケークヒーゴトスーゴセーリ
ちにちのつかれやすめーつ
タシミーテトモニハータラータ

我が家

二、我が家

一、我が家は、貧しくも、

足らはぬ事なく、

むつまじく

たのしき家なり。

朝には星かげあふぎ

島に出でて、

安らけく日毎すごせり。

二、我が家は、何事も

心をあはせて

業はげむ

たのしき家なり。

夕には月かげふみて

家居にかへり、

一日の疲やすめつ。

三、我が家は、夏・冬も、

日も、夜も、おだしく、

すこやかに、

たのしき家なり。

父母の言葉を守り、

力をあはせ、

親しみて共にはたらく。

校庭にて

校庭にて

$\text{♩} = 88$

$\text{♩} = 88$
f leggiero
p

cresc.

p 軽快に

一ユタケキ ハルノ アサヒヲ アビテ イマー
ニさやけき あきの ゆふひの かげに とも一

p

八四

校庭にて

$\text{♩} = 88$

ゾ ラド ルソカキ イ ノー チ
と かに る こ こ ろ し づー か

fp

p 柔かに

アカヨ アカヨ マクルナカテ ヤ
みよや けふも くれゆくそら を

fp

p 軽快に

ツケヤ フセグ ソレシロシロ ヨ
ゆめと すきぬ われらのやと せ

p

八五

や、飛く *cresc.* *mf* *f*

キ ヨ キ ナシホハ ホホ ニ モ エ テ
をさ な き おもひで むね に わきて

cresc. *f*

p 軽く柔かに

タ マ ウ ケ タ マ ケ ル ラ シ ヘ ノ ニ ハ
ま ど と ち ひ と な き かうーしやのほと

p

mf *f*

ニ クソ ン セ イ ア ガ レ バ コ ズ エ
り う た ご ゑ は な て ば こ ず ゑ

mf *f*

ニ ヒ ビ キ マン タイ ミ ル ミ ル
に ひ ひ き きん せん ひら ひら

p

ハ ナ フ ブ キ
い て ふ ち る

p *mp*

p *mf* *ff*

三、校庭にて

一、ゆたけき春の朝日を浴びて、

今ぞ躍る、若き命。

赤よ、赤よ、負くるな、勝てや。

突けや、防げ、それ 白、白よ。

清き血潮は頬にもえて、

球受け、球蹴る 教の庭に、

歓聲あがれば梢にひびき、

満庭見る見る、花吹雪。

二、

さやけき秋の夕日の影に、

友と語る ころ静か。

見よや、今日も暮れゆく空を。

夢と過ぎぬ、われらの八年。

幼き思出胸にわきて、

窓閉ぢ、人なき 校舎のほとり、

歌聲放てば梢にひびき、

金扇ひらひら、銀杏散る。

渡り鳥

♩ = 80

♩ = 80

mp

p

con And.

mp

mp (p)

一 ヨヲヒニツギテソタリクール
 二 いまおほぞらをわたりきいて
 三 ナホユクサキハハルカナーリ
 四 *p*よをひにつぎてさむぞらーを

v mf

mp

mf (mp)

1. 2. 3. mp

1. 2. 3. mp

con And.

1. p

p

フユノハジメノソタリドソチ
 しばしやすらふひまもなくち
 トホクトビコシソラノタビチ
 ふゆのはじめのわたりどり *mp*ち

サキツバサモスコーヤカニイ
 さきつばさばさをかへりみて
 さきつばさばさをかへりみて *mp*
 1. 2. 3. *mp*

クヤマカハヤスギタクン
 くひのたひやおもふらん
 クトモガラトハダレフツ
 にう

三 渡り鳥

- 一、 夜を日につぎて 渡り来る、
冬のはじめの 渡り鳥、
小さき翼も すこやかに、 幾山川や 過ぎてけん。
- 二、 今、 大空を 渡り来て、
しばしやすらふ ひまもなく、
小さき翼を かへりみて、 幾日の旅や 思ふらん。
- 三、 なほゆくさは 遙かなり。
遠く飛来し 空の旅、
小さき翼も つかれにき、 幾友がらと はぐれつつ。
- 四、 夜を日につぎて、 寒空を、
冬のはじめの 渡り鳥、
小さき翼も かろやかに、 渦まきながら 渡りゆく。

一段と速く

く

mp

p

più mosso

ril.

più p

pp

吉野の宮居

吉野の宮居

♩ = 80

♩ = 80

mp

p

mp *mf*

メ グ ル シ ャ ャ ャ ャ ャ ャ ャ ャ
二 つ も る せ い さ う - ご じ ゅ - し ち

バ ン ジ ャ - ノ キ ミ カ シ コ ク - モ
ち ゅ う - せ つ の し ん つ ぎ つ ぎ - に

ナ ヤ マ セ タ マ ア ヨ シ ノ ヤ マ
み ま か り う せ ぬ よ し の や ま

九四

mp

mp

p

ハ ナ ノ イ ロ ホ コ レ ド モ ハ レ ヤ ラ ス オ ホ ミ ク タ
つ き の か ほ さ ゆ れ ど も か き く も る あ め の し た

ア ア ハ レ ヤ ラ ス オ ホ ミ ク タ
あ あ か き く も る あ め の し た

吉野の宮居

二四、吉野の宮居

一、めぐる春秋 五十七、
萬乗の君 かしくも
なやませ給ふ、吉野山。
花の色 ほこれども、
はれやらぬ 大御歌。
あゝ、はれやらぬ 大御歌。
二、つもる星霜 五十七、
忠節の臣 つぎつぎに
身まかり失せぬ、吉野山。
月の顔 さゆれども、
かきくもる 天の下。
あゝ、かきくもる 天の下。

九五

骸 三 題

骸
三
題

♩ = 144

♩ = 144 軽快に

mp

The piano introduction is in 2/4 time, marked with a tempo of 144 and the instruction '軽快に' (Allegretto). It features a melody in the right hand and a supporting bass line in the left hand, both in B-flat major. The melody includes a triplet of eighth notes in the final measure.

mf 軽快に

一 ヒ サ シ ヲ タ タ タ オ ト タ カ ク
二 お ほ ら く ら く か せ う な り
三 ム ラ ヨ リ ム ラ ヘ ヒ ネ モ ス フ

mf

The first system of the vocal and piano accompaniment. The vocal line is in B-flat major, 2/4 time, marked 'mf' and '軽快に'. The piano accompaniment is in the same key and time, marked 'mf'. The lyrics are written below the vocal line.

イ ノ チ ア ル ゴ ト アー ラー ソ ヒ テ
く も の う へ な る く に ば ら に
テ プ リ ア シ ブ リ オー モー シ ロ ク

The second system of the vocal and piano accompaniment. The vocal line continues the melody, and the piano accompaniment provides harmonic support. The lyrics are written below the vocal line.

九六

ハ ネ テ ヲ ト リ テ ハ チ ク エ ノ
お ぞ や い く の は じ ま り て
サ ル マ ハ シ テ ヲ ド ラ セ テ

The third system of the vocal and piano accompaniment. The vocal line continues the melody, and the piano accompaniment provides harmonic support. The lyrics are written below the vocal line.

mp オ モ ト ノ ハ ト ハ ニ ハ サ マ リ テ
mf た り は な り と や そ れ に ま の
mp ツ カ レ テ カ ー ヘ ル サ ル ヒ キ ノ

mp
(mf)
(mp)

The fourth system of the vocal and piano accompaniment. The vocal line continues the melody, and the piano accompaniment provides harmonic support. The lyrics are written below the vocal line.

タ タ ヒ ト ー ツ プ ガ ア ケ ノ ミ ニ
と び く る ー ご と く ち る ご と く
セ ニ サ ム ー ザ ム ト ネ ム リ ヲ ル

The fifth system of the vocal and piano accompaniment. The vocal line continues the melody, and the piano accompaniment provides harmonic support. The lyrics are written below the vocal line.

mf フ ト ナ ラ ビ タ ル ア ラ レ カ ナ
い ま ふ り し き る あ ら れ か な
サ ル オ ド ロ カ ス ア ラ レ カ ナ

mf *f*

The sixth system of the vocal and piano accompaniment. The vocal line continues the melody, and the piano accompaniment provides harmonic support. The lyrics are written below the vocal line.

骸
三
題

九七

二五、霰 三題

一、

廂^{せう}をたたく音^{おと}高く、
命^{いのち}あるごとく争^{あらそ}ひて、

はねて、跳^はりて、

鉢^{はち}植^うの葉^はと葉^はに

萬^{ばん}年^{ねん}青^{せい}の葉^はと葉^はに

ただ一粒^{ひとつぶ}が、紅^{こう}の實^みに

ふと並^{なら}びたる霰^{せんとく}かな。

大^{だい}空^{くう}くらく、

雲^{うん}の上^{うへ}なる風^{ふう}うなり、

二、

おそや、戦^{いくさ}の國^{くに}原^{はら}に、

始^{はじ}りて、

飛^と來^きる如^{ごと}く、

今^{いま}、降^ふりしきる霰^{せんとく}かな。

たけなはなりとや、

彈^{たま}丸^{まる}の如^{ごと}く、

飛^と來^きる如^{ごと}く、

今^{いま}、降^ふりしきる霰^{せんとく}かな。

村^{むら}より村^{むら}へ、

手^てぶり、足^{あし}ぶり、

猿^{さる}をまはして、

をどらせ、

疲^{つか}れて歸^{かへ}る、

背^せに寒^{さむ}いと、

猿^{さる}驚^{おどろ}かす、

眠^ねりをる、

三、

村^{むら}より村^{むら}へ、

手^てぶり、足^{あし}ぶり、

猿^{さる}をまはして、

をどらせ、

疲^{つか}れて歸^{かへ}る、

背^せに寒^{さむ}いと、

猿^{さる}驚^{おどろ}かす、

眠^ねりをる、

少女のまどろ

(二部合唱)

少女のまどろ

♩ = 69

mp

一 オ ナ ジ ヲ ト メ ト ウ マ レ キー テ
二 む ね に あ ふ る る は な の ゆー め
三 ユ ク テ ハ ル ケ キ ヨ ノ ナ カー ニ
四 お な じ お も ひ に う た ひ つー つ

♩ = 69

mp

一 オ ナ ジ ヲ ト メ ト ウ マ レ キー テ
二 む ね に あ ふ る る は な の ゆー め
三 ユ ク テ ハ ル ケ キ ヨ ノ ナ カー ニ
四 お な じ お も ひ に う た ひ つー つ

♩ = 69

mp

mf *mp*

コ ロ ノ ア ヘ ル ト モ ダ チ ト
の ど み に み て る ゆ く す ゑ の
カタ ミ ノ ミ チ ハ ケ ハ シ ク モ
あ ふ げ は う か ぶ あ を ぐ も も

mf *mp*

コ ロ ノ ア ヘ ル ト モ ダ チ ト
の ど み に み て る ゆ く す ゑ の
カタ ミ ノ ミ チ ハ ケ ハ シ ク モ
あ ふ げ は う か ぶ あ を ぐ も も

mf *mp*

100

少女のまどろ

♩ = ♩

mp *rit.*

シ プ カ ニ カ タ リ ア ソ ビ ウ ル
か な た の そ ら を お も ふ に も
テ ニ テ ヲ ツ ナ キ タ ス ク シン ト
ひ か り を そ へ て し た し げ に

♩ = ♩

mp *rit.*

シ プ カ ニ カ タ リ ア ソ ビ ウ ル
か な た の そ ら を お も ふ に も
テ ニ テ ヲ ツ ナ キ タ ス ク シン ト
ひ か り を そ へ て し た し げ に

mp *rit.*

♩ = ♩ *a tempo*

mf

ケ フー ノ マ ト キ ノ ウ レ シ サ ヨ
わ か き い の ち は た の し き に
カ タ ル マ コ ト ノ タ ノ モ シ サ
け ぶー の ま と め を い は ふ ら し

♩ = ♩ *a tempo*

mf

ケ フー ノ マ ト キ ノ ウ レ シ サ ヨ
わ か き い の ち は た の し き に
カ タ ル マ コ ト ノ タ ノ モ シ サ
け ぶー の ま と め を い は ふ ら し

mf *a tempo*

101

二六、少女のまとう

一、おなじ少女と生まれ来て、

心のあへる友だちと、

静かに語り遊び得る、

今日のまとうのうれしさよ。

二、胸にあふる花の夢、

望に満てる行末の

かなたの空をおもふにも、

若きいのちは樂しきに。

三、行手はるけき世の中に、

互の道はけはしくも、

手に手をつなぎ助けんと、

語るまことのたのもしさ。

四、同じおもひに歌ひつつ

仰げば浮かぶ青雲も、

ひかりを添へて、親しげに

今日のまとうをいはふらし。

兄弟

(二部合唱)

兄弟

♩ = 58

p

弟 カヘミル サギリ ノカドニ
兄 かたをか のさざり のはたに

V

カ スミツ ツ ク カゲハ ハハヨ
か すみつ つ く は ふる はちちよ

101

兄弟

mp ♩ = 88 合唱

ソ レ ラ フ オーク ル
あ さ よ り はーじ ゅ

mf

ノ アイ ト チカラ ニイ キテ タ
き は ひ も な み た も と も に ひ

cresc.

ラ チ ネ ノ オホキミ キ ヨ ヤ
とし な み おひしわ れ ら の

102

二七 兄弟

弟かへりみる 狭霧の門に、
 かすみつつ 立つ影は母よ、
 我等を送る。

兄弟の狭霧の畑に、
 かすみつつ 鋤振るは父よ、
 朝より勵む。

この愛と力に生きて、
 垂乳根の大き幹より 枝分けしはらからなれや。
 「その枝に花の咲かずば。」
 「その花のあだに散りなば。」

さきはひも、涙も、ともに、
 ひとしなみ生ひし我等の、
 「その枝に花をかざらん。」
 「その花に實をば結ばん。」
 伸び伸びつ秀枝となりて、

The musical score is written for voice and piano. It consists of three systems of staves. The first system has a vocal line and a piano accompaniment. The second system also has a vocal line and a piano accompaniment. The third system has a vocal line and a piano accompaniment. The lyrics are written below the vocal line. The score includes various musical notations such as notes, rests, and dynamic markings like *f*, *ff*, *dim.*, and *ril.*.

エタリケンハラカ ラナレーヤ
 のびのびつほづえ と な り て

ソ ノエダニ ハナ ノ サカズバ
 そ の えだ に は な を か ざ ら ん

ソ ノハナノ アダニチリナバ
 そ の は な に み を は む す は ん

姉 妹

姉
妹

$\text{♩} = 80$

一モ モノ ハナ サク
ニよ め な つ み あふ

ヒナ マツ リ ハ ル サ ン ダツ ノ
く さ づ つ み は や ぶ ー ざ り の

cresc.

姉
妹

p

イ モ ト ト ヨ ビ テ ム ツ マ シ ク
い も と と よ ひ て か に り つ つ

mf

メ ダ ツ ツ ヒ ナ フ カ ザ リ ケ リ
て を と り あ ひ て か へ り け り

f

姉
妹

mf *ril.* *rit. p* *mf* *Tempo I* *pp*

ア ア コ コ ロ ヤ サ シ ア ネ イ モ ト イ ク タ ビ
あ あ こ こ ろ や さ し あ ね い も と い く た び

mf *ril.* *rit. p* *mf* *Tempo I* *pp*

ハ ル ハ メ グ ル ト モ カ ハ ラ ス
は る は め ぐ る と も か は ら ぬ

p

ア ネ ノ ホ ホ エ ミ ヨ イ ト シ キ
あ ね の ほ ほ え み よ い と し き

mp *p*

ア ネ ノ ホ ホ エ ミ ヨ イ ト シ キ
あ ね の ほ ほ え み よ い と し き

姉
妹

mp *ril.*

イ モ ト ノ ホ ホ エ ミ ヨ
い も と の ほ ほ え み よ

二、桃の花咲く 雛祭、春三月の窓近く、
姉と呼び、妹と呼びて、睦しく、
あ、心やさし、姉妹。
めてつつ雛を飾りけり。
幾たび春はめぐるとも、
幾たび春はめぐるとも、
いとしき妹のほほえみよ、
いとしき妹のほほえみよ、
二、よめな摘合ふ草堤、はや夕霧のこめたれば、
姉と呼び、妹と呼びて、語りつつ、
あ、心やさし、姉妹。
手を取合ひて歸りけり。
あ、心やさし、姉妹。
幾たび春はめぐるとも、
幾たび春はめぐるとも、
いとしき妹のほほえみよ、
いとしき妹のほほえみよ、

告 別 の 歌

(二部合唱)

告
別
の
歌

♩ = 84

♩ = 84
mp

— ハ ナ — ハ ナ ケ ド ト リ ハ ウ タ —
は の く さ — き も あ た り の な か —

mp

へ ト ソ ザ ヲ ヘ シ ヨ ロ コ ビ ア レ ド イ
め も な つ か し — の お も ひ — で み ち て い

mf

一
二
三

告
別
の
歌

マ ズ シ ル リ カ レ ノ コ コ — — ム
ま よ り ゴ こ こ ろ に か か — — る

や、おそく
心をこめて

mf

シ ノ キ ミ ノ ア ツ キ ミ ラ シ ヘ カ キ
よ き と も よ さ ら ば わ か れ ゴ ま こ

meno mosso
p espressivo

mf

リ — ナ キ ア イ ヨ ヒ カ リ ヨ
と — も て と は に お も へ や

poco rit.

f

poco rit.

一
二
三

* 此のフェルマータをもてる四分音符は、前段の速度をうけて約三拍の間延び。

Tempo I

mf

ソ レ - ラ ミ - ナ イ カ テ ソ - ス -
わ れ - ら と - て い か て わ - す -

Tempo I

mf

レ ン コ ノ マ ド ニ マ ナ ビ -
れ ん こ の そ の に む な び -

mp

シ ヒ フ - バ ニ
し ひ を -

1. *mp* 2. *mp*

f

二九 告別の歌

一、
花は咲けど、鳥は歌へど、
業卒へし喜あれど、
今ぞ知る、わかれの心。
師の君の厚き御教、
限りなき愛よ、光よ。
我等みな、いかで忘れん、この窓に學びし日をば。

二、
庭の草木も、あたりのながめも、
なつかしの思出満ちて、
今よりぞ心に繋る。
よき友よ、さらば別ぞ、
信もて永遠に思へや。
我等として、いかで忘れん、この園に睦びし日をば。

K140.73-2.1-22

K130.7

新訂
高等小學唱歌
伴奏附

昭和十年六月十二日
文部省検査済

第二學年用 定價金四拾八錢



昭和十年四月十二日 印刷
昭和十年四月十五日 發行
昭和十年六月十五日 訂正發行
昭和十六年三月二十五日 翻刻印刷
昭和十六年四月三十日 翻刻發行

著作権所有 著作兼 文 部 省
發行者

東京市京橋區銀座一丁目五番地

翻刻發行者 大日本圖書株式會社

代表者 杉山常次郎

東京市小石川區久堅町百八番地

印刷者 大橋光吉

東京市小石川區久堅町百八番地

印刷所 共同印刷株式會社

發行所 大日本圖書株式會社

